

## 令和5年度弘前市立図書館協議会 会議録（第2回）

日時	令和6年2月1日（木） 14時00分～15時00分		
場所	弘前図書館2階 会議室	傍聴者	0人
出席者 (敬称略)	委員長        郡 千寿子 副委員長     高嶋 敬子 委 員         鈴木 敏浩 委 員         相馬 玲子 委 員         境 江利子 委 員         田澤 京子 委 員         田沢 一之 委 員         関 光博		
欠席者 (敬称略)	委 員         鎌田 猛 委 員         奈良岡 裕子		
事務局側 出席者	弘前図書館館長                      黒滝 雅信 弘前図書館業務主任者              阿部 美子 生涯学習課長                         原 直美 図書館・郷土文学館運営推進室長      山田 俊一 図書館・郷土文学館運営推進室主査    黒崎 みお		
配布資料			
資料1 令和6年度 事業計画及び管理業務実施計画 資料2 弘前市小・中学生読書感想文コンクールについて 資料3 弘前市電子図書館の利用状況等について			
次 第			
1 開会 2 議事 (1) 令和6年度弘前市立図書館の事業計画等について (2) 弘前市電子図書館の利用状況等について 3 閉会			

会議内容（概要）	
事務局	<p><b>報告：第1回協議会案件</b></p> <p>開会に先立ち、8月8日開催の第1回協議会で意見のあった、避難訓練の実施方法について、報告申し上げる。</p> <p>避難訓練の実施にあたっては、利用者を巻き込んだ実態に即した訓練を行ってはどうか、という意見であったが、博物館などの施設を所管する関係各課へ確認したところ、不特定多数の利用者に対して事前の完全な周知が困難であることから、訓練は閉館時あるいは休館日など一般の利用者がいない時間帯に実施していたところである。利用者への配慮のため、職員のみでの訓練を行いたいと考えている。</p> <p>また、避難訓練実施のチラシの掲示については、9月の間、館内に掲示して周知を図ったところである。</p> <p><b>開会</b></p> <p><b>議事（1）令和6年度弘前市立図書館の事業計画等について</b></p> <p>（資料1、資料2に基づき説明）</p>
事務局	
館長	<p>（補足説明）</p> <p>指定管理者が行う、弘前図書館の自主事業については、「図書館製本講座」を新たに始めたいと考えている。新型コロナウイルス感染症への対応が緩和されてから、利用者がある程度、戻ってきている現状を鑑みて、コロナ禍以前の事業に更に加えるような形で事業を行い、利用者増への取り組みとして、行っていく予定である。令和5年度も自主事業の一つとして、演劇を市民講座と合体させたような形で、イベントを開催したところである。完全ではないが、コロナ禍以前の半分強程度の参加許容人数には戻しつつあり、参加者数は、かなり増えていると感じている。</p> <p>岩木図書館やこども絵本の森に関しては、従前と同じように事業を行っており、アップルウェブの広報媒体を使って、いろいろなイベントを市民に発信して、参加していただけるよう取り組んでいるところである。こういったものを作って欲しいというようなご要望があれば、委員の皆様からもお聞きして、今後の活動の参考にさせていただきたいと考えている。</p>

	<p><u>質疑「避難訓練について」</u></p>
委員	令和6年度の避難訓練の開催時期はいつか。
館長	例年通り年2回を予定しており、防災月間である9月に追手門広場全体で、もう1回は2月あたりを予定している。
委員	今年度の9月に実施した避難訓練では、図書館職員が利用者役となって行ったのか。
館長	図書館の職員の中では、誘導する係が半分、その他のスタッフが普通の利用者役という形で行ったところである。
委員	<p>そのような形が実際に則し、現実的で良いと感じる。先日、1月2日に発生した日航機の炎上では、あれほどの大事故でありながらも、乗客が全員無事に脱出したと報じられた。これは、航空会社が定期的な避難訓練を行っていたからだ、私は考えている。最近は、いつどこで、どのような災害があるか分からない時代である。このことを踏まえ、今後の訓練では、内容を充実させ、継続いただくよう要望したい。</p> <p>また、前回提案したチラシによる周知の件は、事務局からの説明のとおり、ポスターの掲示を確認した。とても良いと感じたところである。こちらについても、利用者の防災意識を高めるという観点から、今後も観光館側と正面玄関側の出入口に、お知らせを掲示していただきたい。さらに、可能であれば、館内にもお知らせを設置することを検討いただきたい。</p>
館長	承った。
	<p><u>質疑「市民講座について」</u></p>
委員	自主事業「弘前図書館市民講座」の具体的な内容は決まっているか。決まっていないうであれば、提案をしたいと思っている。
館長	市民講座は、基本的には弘前市内の、いわゆるプロフェッショナルと呼ばれる方、活躍されている方を招いて、市民の方へ講義してもらうもの

	<p>である。</p> <p>第1回は弘前市の老舗の大阪屋の第13代当主を招き、銘菓の製法などについて講演していただいた。令和4年には、地域の弘前ねぶたの研究をなさっている成田敏さんを招き、「弘前ねぶた400年史」という内容で、青森ねぶたとの違いなどについて講義していただいた。令和5年には、市内で活動をなさっている劇作家であり演出家の藤島和弘さんを招いて、活動内容や演劇に対する心構えなどについて、発表していただいた。今後も、例えば、音楽活動をされている方などを招いて開催したいと計画している。もし、リクエストがあるのであれば、今後の参考にさせていただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>では提案だが、今、NHKの大河ドラマで源氏物語を題材とした、「光る君へ」が放送されており、源氏物語が全国的にもブームになっていると思われる。</p> <p>ご存じかと思うが、高岡の森弘前藩歴史館では、源氏物語之詞（げんじものがたりのことば）という、源氏物語54帖の一部を公卿54名が抜き書きしたものがあり、弘前市の指定文化財となっている。これに関する説明を、高岡の森弘前藩歴史館の学芸員や大学の中世文学の専門家に依頼し、レベルの高い話をしていただいたらどうかと私は思っている。</p> <p>源氏物語之詞は、近衛家から弘前藩十二代藩主の承昭（つぐあきら）に嫁いだ継室のぶが、高照神社へ奉納したものの一つである。歴史館には、他にもものぶ奉納の道具類があるが、中でも源氏物語之詞は、全域的にも珍しいものではないかと考えている。</p> <p>歴史館では直近だと令和5年度の秋に展示したが、令和6年度以降の展示予定は未定と聞いている。せっかく弘前市にあるのだから、これを題材にした話を大学の先生に依頼し、レベルを上げて開催すれば、人気が発していることもあり、人もたくさん集まり、図書館に行こうかなというふうになると思うため、このような提案をさせていただく。</p>
<p>議長</p>	<p>田沢委員からの、市民講座に大河ドラマ「光る君へ」にちなんだ源氏物語と当館や歴史館に所蔵しているものの関連のお話はどうかという提案については、ご検討いただきたい。</p> <p>このほか、ご意見、ご質問はいかがか。</p>

	<b>質疑「ブックスタート事業について」</b>
委員	指定事業「ブックスタート事業」は、赤ちゃんを対象に絵本を配るということだが、これを配布するタイミングはいつか。母子手帳配布時に一緒に配布しているものか。
事務局	出生届を提出し、お子さんの健診票をお送りする際に一緒にブックスタートのご案内を配布し、実際に図書館に来館していただいて、ガイドブック等と併せて、絵本を2冊お配りしているものである。
委員	配布される絵本2冊は、保護者が選択できるものか。
事務局	配布される絵本2冊は年度ごとに決まっており、数年ごとに更新し、来年度は絵本の種類が変わる予定である。
委員	来館した方にのみに配布しているのか。
事務局	来館し、引換券を持ってきていただいた方にお渡ししている。
	<b>質疑「手づくり絵本講習会について」</b>
委員	指定事業「手づくり絵本講習会」は、出張していただくことは可能か。
館長	「手づくり絵本講習会」は、当館では、ささやすゆき先生を講師に招いて開催しているものだが、出張は行っていないものである。
	<b>質疑「はとぶえ号について」</b>
委員	<p>移動図書館車の「はとぶえ号」が、児童センターなど色んな場所にきてくれてとても助かっているが、例えば、今、巡回コースに入っていない保育園や子育て支援センターなどが巡回コースに入れて欲しいといった要望があれば、対応は可能なものか。</p> <p>子育て支援センターには、幼稚園にも保育園にも入っておらず、子育てが何も分からなくて不安という保護者が通っており、そういうところにはとぶえ号が来てくれると、センターにいる保育士などが絵本の読み聞かせや絵本の素敵さを伝えることができるのではないかと思っている。</p>

事務局	<p>「はとぶえ号」の巡回コースは決まっておき、図書館へ足を運ぶことが困難な市民の利便性の向上を図るため、学区や一定の利用者などを踏まえ、全域にまたがるような形で設定しているもので、スケジュール的にも、新たなステーションを設けるには余裕がない状態になっているところである。今後、現在設定しているステーションが使用できなくなった時などには、ルートを選定が必要となってくるため、その際は、いろいろな場面を想定できるよう検討してまいりたい。</p> <p>また、保育所等といった特定の場所で絵本等を多く選ぶということであれば、読書団体として登録していただき、団体貸出を利用することもできると思うため、そちらをぜひご案内したい。</p>
委員	<p>「はとぶえ号」の巡回コースの権限は図書館にあるのか、それとも市にあるのか。今のような意見もあると思われるため、要望の多いところにコースを変えるなど、柔軟に対応して、市のほうで働きかけてもいいのではないか。</p>
事務局	<p>検討させていただく。</p>
委員	<p><u>質疑「学校図書館訪問事業について」</u></p> <p>指定事業「学校図書館訪問事業」では、年間でどのくらいの依頼があるのか。</p>
館長	<p>今年度は、福村小学校と城西小学校の2件、訪問したところである。当館で実施している「学校図書館訪問事業」と内容が似ているものがある。こちらにも、当館のスタッフが可能な限り同行し、訪問指導しており、今年度は、石川中学校と北小学校の2件を訪問している。同様の活動であることから、県立の素晴らしい指導を参考とさせていただき、今後も一緒に行ってまいりたい。</p>
委員	<p><u>質疑「貸館の利用について」</u></p> <p>視聴覚室の利用規定を確認したい。自分でも去年まで古文書教室で利用していたが、古文書を研究する団体がいくつか利用していると認識して</p>

事務局	<p>いた。ただ、古文書の研究は郷土史の研究と両輪であり、古文書研究ではなく、幅広く、郷土史研究としても利用が可能なものか伺いたい。</p> <p>貸館の一般利用はしておらず、いわゆる、図書館の本来業務である読書活動や古文書等の解読のような活動に対しては、図書館利用の促進ということで貸しているものである。他の部分に広げるには、その活動の内容等と照らし合わせて判断していく必要があり、即答は出来かねるものである。</p>
委員	<p>では特に規定というものはなく、その都度、内容を確認しながらということか。</p>
事務局	<p>そのとおりである。</p>
事務局	<p><b>議事（２）弘前市電子図書館の利用状況等について</b>  （資料３に基づき説明）</p>
館長	<p>（補足説明）  電子図書館について、改めてご説明する。  電子図書館が公共図書館に導入されたのは、2007年（平成19年）の東京千代田区立図書館が最初と言われている。その8年後の2015年には、全国で40館に、そして、コロナを経て、現在は350館もの公共図書館で電子図書館が導入されている。自治体エリアの人口で単純計算すると、350館の自治体人口は6,756万人で、これは日本の総人口の54%となり、過半数の方が電子図書館を利用することができるといえるものである。この電子図書館が普及した背景には、電子書籍の充実が挙げられる。2023年8月現在における、紙の出版物は320万点ほどに対して、電子書籍は52万点と増え続けている。  また、新型コロナの影響で図書館が臨時休館の措置を取ったこともあり、それも電子図書館普及につながったと言われている。本県では、県立図</p>

	<p>書館、おいらせ町立図書館、三沢市立図書館が実施しており、中泊町では教育委員会が小中学校向けの電子図書館を運営していると聞いている。私共、指定管理者図書館流通センターとしても、新しい時代に添った更なる電子図書館サービスの普及と充実に努めてまいりたいと考えている。</p> <p>少しずつではあるが、弘前市電子図書館には郷土資料も掲載しており、今年度は「弘前ねふた」を、来年度は「弘前ガイド」という中学・高校生向けの英語テキストになるようなものの掲載を予定している。こういった郷土資料の充実にも努めてまいりたい。</p>
委員	<p><b>意見「学校での利用について」</b></p> <p>学校に関係して、小学校と中学校の利用状況を比較すると、小学校は利用しているが、中学校の利用はほとんどない、と率直にお思いになると思うが、これは、小学校では、担任の先生が主に朝から帰りまで、という担任制であることから、すき間時間での利用などに電子図書館を活用することができる。一方、中学校では、朝読は別として、教科担当であり、かつ、カリキュラムが年間を通して決まっていることから、仮に、時間が余ったときに利用できることがあるかもしれないが、担当教科の問題もあり、中学校の場合は担当教科の内容に関連しているものでなければ、取り上げることができない。ただ時間が余ったから読書をさせる、ということは、中学校としては、なかなかできないというところで、このような結果に現れているものと推察される。この事業自体は素晴らしいものであるため、次年度以降、中学校での活用を検討していきたいと思っている。</p>
委員	<p><b>意見「読書感想文コンクールについて」</b></p> <p>読書感想文コンクールの休止については、少し残念だと感じたところである。休止にあたっての提案だが、読書感想文だとハードルが高いと感じる子どもたちが多いと思われるため、例えば、自分の推しを宣伝するコンクール、といった子どもが取り組みやすいものを開催していただければ、さすが文学都市弘前といえるのではないかと感じる。マンガやボードゲームでも、おとなが全く想像もつかず、簡単に取り掛かれないようなもので、子どもたちにとってはハードルを低くして入っていけるようなものが、読書感想文の代わりにあればいいと感じた。</p>



委員	<p><u>意見「ブックスタート・読書感想文コンクールについて」</u></p> <p>ブックスタートの本の選書のことだが、図書館で読み聞かせのボランティアを行っている一員に、ブックスタートで配布する絵本の候補リストが渡され、その中からそれぞれ選択し、最終的に一番推薦が多かった絵本が、その年から2～3年間、ブックスタートで配布される絵本になっている。お子さんが年子となる場合等も想定し、一家庭にお渡しする絵本が重複しないよう、複数冊用意しておくといった配慮もしながら、図書館や保健センターの方と連携して事業を行っている。</p> <p>また、そのブックスタートの事業の一環で、ヒロロのこども絵本の森で、月2回「ブックスタートおはなしかい」を開催しており、読み聞かせボランティアが赤ちゃんとお母さんを対象にブックスタートでプレゼントした絵本の読み聞かせをして、絵本の楽しみ方のアドバイスをを行っている。このため、はとぶえ号が巡回するということと、ブックスタートとは全く別の事業であるということは、ご理解いただきたい。</p> <p>読書感想文コンクールに関しては、私も残念だと思ったところである。弘前図書館のロビーに展示されていた、読書感想文コンクール入賞者の感想文を見ていたら、小学校4年生で『山月記』の感想文を書いているものを見て驚いた。それ故に、非常に惜しいと感じた。先ほど委員からの意見もあったように、子どもたちが推す本を展示するということは面白いと思う。今の子どもたちが、どのような本に興味を持っているのか知りたいと思っているため、子どもたちの推しカードのようなものと本の展示をしていただきたいと思う。</p> <p><b>閉会</b></p>
----	---